

城の石垣

泉鏡太郎

青空文庫

おな 同じことを、東 京では世界一、地方では日本一と誇る。
 さうしうをだはら まち でんしやてつだう まちあひ
 相州小田原の町に電車鐵道待合の、茶店の亭主が言
 に因れば、土地の鹽辛、蒲鉾、外郎、及び萬年町の竹
 けやふぢ きんがうし とうかいろう れうりてん てんり しろ いしがき およ
 屋の藤、金格子の東海樓、料理店の天利、城の石垣、及
 び外 廓の梅林は、凡そ日本一也。
 そとぐるわ ばいりん およ につほんいちなり
 くわんじ 莞爾として聞きながら、よし／＼其もよし、蒲鉾は旅店
 くちとり ちかづき いか しほから せつき かまぼこ はたごや
 の口取でお知己、烏賊の鹽辛は節季をかけて漬物屋のび
 らで知る通、外郎は小本、物 語で懇意なるべし。竹屋の藤
 じせつ 是時節にあらず、金格子の東海樓は通つた道の青樓さの、
 ところけふ はらくあひ ぐわいちう つがふ よ てんり
 處で今日の腹工合と、懷 中の都合に因つて、天利といふの

で午餉ひるにしよう、其まづ其その城しろを見て梅うめとやれ、荅つぼみは未まだ固かたくツて
 もお天氣てんきは此この通りとほ、又また此この小田原をだはらと來きた日ひには、暖あつたかいこと日にっほ
 本んいち一いちだ、喃なあ、御亭主ごていしゅ。然さやうでござります。喜きた多た八はち、さあ、
 其その氣きで歩あゆばつしと、今いまこそ着きな流ながしで駒こま下げ駄たなれ、以い前ぜんは、つか
 さやをかけたお太刀たち一本いっほん一寸ちよつとき極きめ、振ふり分わけの荷物にもつ、割わり合が羽つば、
 函嶺はこねの夜路よみちをした、内うち神田かんだの叔父おぢ的き、名なを彌や次じろ郎べゑ兵衛べゑといふ小
 田原通だはらつう、アイお茶代ちやだいを置おいたよ、とツイと出でるのに、旅たびは早は
 やだち立たちとあつて午前六時ごぜんろくじに揺ゆり起おこされた眠ねむい目めでついで行く。
 えきろ うま すゞ おと
 驛路えきろの馬うまの鈴すゞの音おと、しやんと來くる道筋みちすぢながら、時世ときよといひ、
 おほみそか だうちみつそ
 大晦日おほみそか、道中だうちみつそ寂じりとして、兩りやうがは、ひさしなら、
 まき そろ ねじめ かとまつ は た つら とし かみ おく
 薪まきを揃そろへて根占ねじめにしたる、門松かどまつを早はや建たて連つらねて、歳としの神かみを送おく

るといふ、お祭まつりの太鼓たいこどんくく。ちゆうひやらくくと角兵衛かくべゑ
 獅子しし、暢氣のんきに懷ふところで町内ちやうないを囃はやして通とほる。

此この町出外まちではづれに、森見もりみえてお城しろの大手おほて。

しばしイむ。

此處こゝへ筒袖つゝそでの片手かたてゆつたりと懷ふところに、左手ゆんでに山牛莠やまごぼうを提ひつさげて、

頬ほ被かぶりしたる六十むそばかりの親仁おやぢ、ぶらりと來懸きかるに路みちを問とふこ

とよろしくあり。お節せつにや拵こしらふるに、このあたり門かどを流ながるゝ小川をがは

に浸ひたして、老若男女らうにやくなんにようちまじ打交てり、手に手に之これを洗あらふを見たみ。後のち

に小田原をだはらの町まちを放はなれ、函嶺はこねの湯本ゆもと近ちかに一軒いつけん、茶店ちやみせの娘むすめ、窶やつ

姿すがたのいと美うつくしきが、路傍みちばたの笥かけひ、前まへなる山凡やまおよそ三四さんしひ百間やくけん遠とほき

處ところに千歳ちとせ久ひさしき靈かたちみづ水みづを引ひいたりといふ、清きよらかなる樋ひの口くちに

つめ冷たき其の土を洗ふを見て、山の芋は鰻になる、此の牛蒡恠くて
 いはしみづ石清水に身を灌がば、あはれ白魚に化しやせんと、そゞろ胸
 に手を置きしが。

扱て路を教へて後、件の親仁つく／＼と二人を見送る。いつ
 れ美人には縁なき衆生、其も嬉しく、外廓を右に、やが
 て小さき鳥居を潜れば、二の丸の石垣、急に高く、目の下忽ち
 濠深く、水はやゝ涸れたりと雖も、枯蘆萱の類、細路をかけ
 て、霜を鎧ひ、ざつくと立つ。思はず行き悩み立つて仰げば、虚
 空に雲のかゝれるばかり、參差たる樹の間々々《くく》、風さへ
 渡る松の梢に、組連ねたるお城の壁の苔蒸す石の一個々々。勇
 將 猛士幾千の髭ある面を列ねし如き、さても石垣の俤か

明治三十五年二月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

初出：「新小説 第七年第二卷」春陽堂

1902（明治35）年2月1日

※表題は底本では、「城《しろ》の石垣《いしがき》」となっています。

※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：岡村和彦

2017年8月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

城の石垣

泉鏡太郎

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>